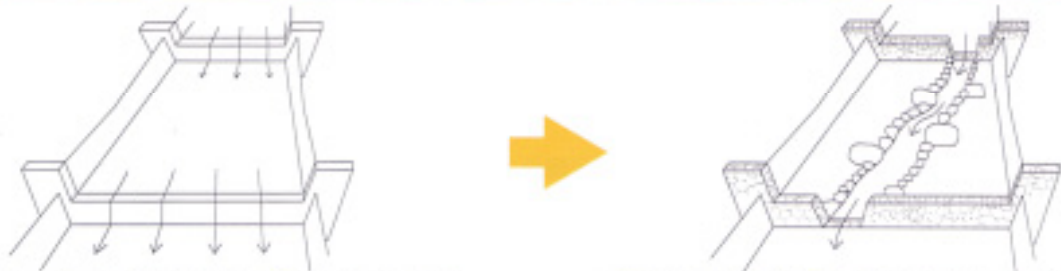


環境に調和させ、景観を守ります



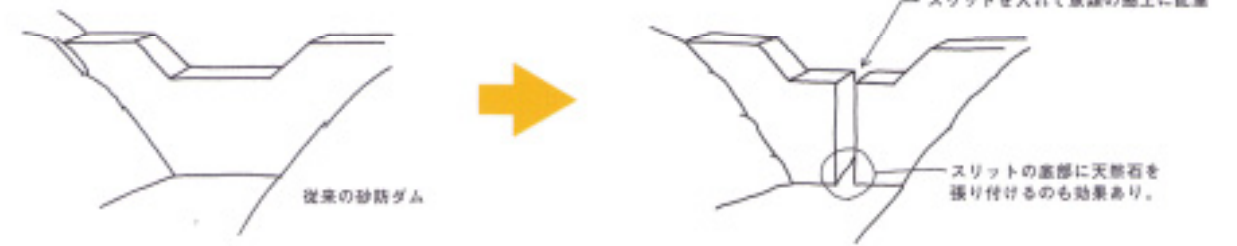
コンクリート製の床固工が幾重にも重なり、人工的な風景になっている。

床固工に現地に散在する石を埋め込んで加工し、視体を修景する。切欠きに変化をつけた工法も用い、できる限り深流に近いイメージに近づける。

新しい環境整備の手法が生まれています

黒部川流域の美しさを未来への財産として守り続けていきたい。自然環境やその景観を壊さないようにと、色々な砂防施設が考案されています。

安全性と親水性が向上します



従来の砂防ダム

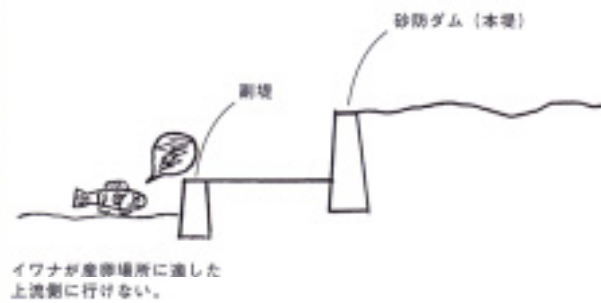
スリットの基部に天然石を張り付けるのも効果あり。



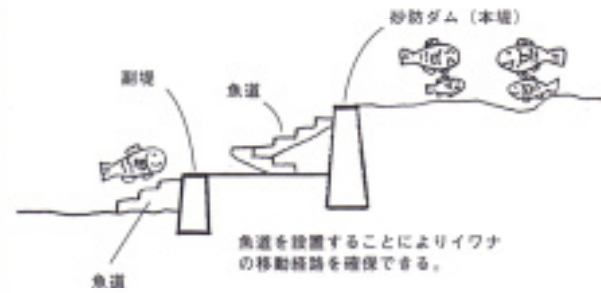
従来の床固工

斜面を付設して魚類の通上をうながす。また、基床の付設などでは子供の転落防止の効果もある。

魚道の設置を図ります

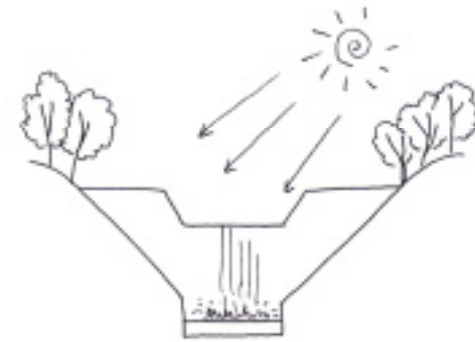


イワナが産卵場所に達した上流側に行けない。

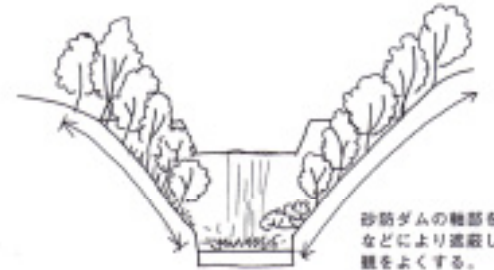


魚道を設置することによりイワナの移動経路を確保できる。

施設を樹木で被います



砂防ダムの袖部は面積も広く、とくに設置直後は明色のコンクリートが目立つ。



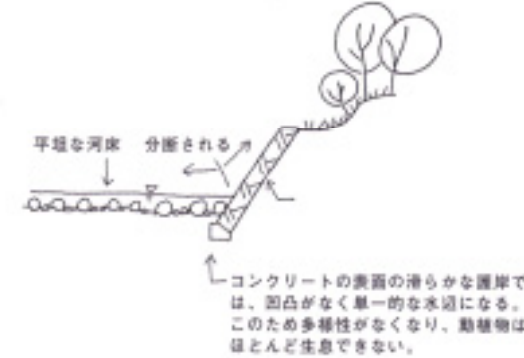
砂防ダムの袖部を樹木などにより遮蔽し、景観をよくする。



適度な湿度がある場所では苔類などによってダムの地色をカバーすることもできる。

キツタ、エビヅル、クズなどつる性の植物によって、視体を遮蔽することもできる。

施設構造を検討して植生を回復させます



平坦な河床 分断される
コンクリートの表面の滑らかな護岸では、凹凸がなく単一的な水辺になる。このため多様性がなくなり、動植物はほとんど生きられない。



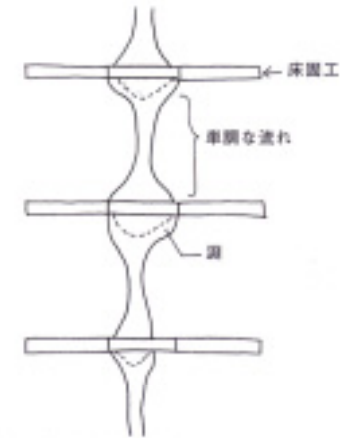
水に影をおとす植生

蛇カゴとヤナギ類により水辺に変化をつけ、多様な生物の生息空間をつくり出す。

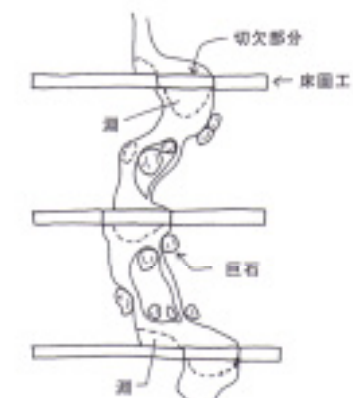


連続した空間

低水路・瀬と淵を復元します



流路工の内部は単調な流れとなり、河床の起伏もほとんどない。



それぞれの床固工の切欠き部分を左右にずらすとともに、巨石を要所場所に配し、流路ならびに河床に変化を付ける。